

ともしび

2012



六月といえば、梅雨の時期に当たります。雨の多くなるこの季節は気分も滅入りがちになります。けれどもこの時期に咲く、紫陽花や杜若あじさい かきつばたが目を楽しませてくれます。そこで、今回は杜若を紹介したいと思います。杜若は五月から六月にかけて咲く花で、紫色の花を咲かせます。花言葉は、「幸運が必ず来る」「幸せはあなたのもの」です。この言葉は梅雨のじめじめとした気候と打って変わって明るく、希望を感じさせる言葉だと思っています。

私は、杜若をみると、雨の季節が過ぎ、夏が来ると秋という豊かな実りの季節がやってくることを感じます。杜若は、嫌な時期がいつまでも続くことはなく、良い時期も必ず訪れるという希望があることを教えてくれているのではないのでしょうか。

〈松葉 裕全〉
まつば ゆうぜん

「ブツダと私」



ものごとは心にまよつぎ
心をまよし心によつて
つくり出される



今月は、お釈迦様のことを記した『ダンマパダ』（真理のことば）という書物の冒頭の一節をご紹介します。

「ものごとは心にもとづき、心を主とし、心によつてつくり出される。もしも汚れた心で話したり行なったりするならば、苦しみはその人につき従う。」

私たちが何かを行なうとき、何か話をするとき、心で考えてから行動することが多いと思います。つまり、心（意識）が私たちの行為をつくり出しているといえます。そのため「汚れた心」で行動を起こすと、私たちの行ないや発する言葉も悪いものになってしまい、そこから苦しみが生じるとお釈迦様は説かれます。汚れた心というのは、欲望や怒り、誤った認識などに囚われた心のことで、言わば曇った状態にある心です。曇った状態の心では、普段なら見えていたことも見えなくなってしまう、ものごとが上手くいかなくなってしまうのです。

私の高校時代の話です。常に一緒に行動していた仲

の良い友人のA君がいました。高校は電車通学でA君とは最寄駅も同じだったので、常に一緒に行動していました。しかし、ある時期から私に対して素っ気ない態度をとるようになってきたのです。何か話しかけても会話が続かないことが多くなり、段々とA君と一緒にいる時間が気まづくなっていきました。そして、私自身もA君を避けるようになり、朝いつも同じ車両に乗っていたのに、別の車両に乗って通学するようになったのです。それからは、A君を見かけても全く話をしなくなり、気まづい日々を過ごしていました。

そんなある日、別の友人から、なんで最近A君と話をしないのかと聞かれ、私は「自分が嫌われているのではないかと思って…」という話をしました。すると友人は、そこで一言。

「自分からそう思ったら終わりだろ」

私はハッとしました。確かに良く考えてみると、A君とは、何か喧嘩をしたわけでもなく、私が勝手に

避けるようになっていたのです。

翌朝、気まづさはありました。今まで避けていたA君の乗っている車両に乗り、「おはよう」と声をかけました。口を聞いてくれるか不安でしたが、A君は何事もなかったように挨拶を返してくれたのです。

きっかけは些細なことだったと思いますが、何かの拍子に嫌われているのではないかと勝手に思っていました。その思いを膨らませてしまっていたのでしよう。私の誤った認識が、誤った思いを生み、行為を生み、結果、自分自身を苦しめていたのです。

冒頭の一節に続けて、お釈迦様は「もしも清らかな心で話したり行なったりするならば、福樂はその人につき従う」と説かれています。清らかな心とは、欲望や怒り、誤った認識に囚われない心。しかし、不安定に揺れ動き、様ざまなことに囚われがちなのが私たちの心です。ですから、その思いが清らかであるか、常に自分自身の心を見返すことが大切なのです。

私の

ふるさと



第二回 熊本県 熊本城



堂々たる天守閣

今月は私のふるさと、熊本県の名城「熊本城」をご紹介いたします。この城は、名古屋城の普請ふしんを命じられたこともある、築城の名手「加藤清正」によって建てられました。清正は「清正公せいしんこうさん」と呼ばれ、今でも親しまれています。その証拠に、熊本市では清正公を偲とんしやんで頓とんしや写会といわれるお祭りが毎年行われています。

熊本城の特徴として、一番有名なものは「武者返し」という石垣です。地面付近の勾配は緩く、上に行くに従って垂直に近付くという作りになっており、西南戦争では西郷隆盛率いる薩摩軍の侵入を許しませんでした。この戦いの後、西郷は「官軍に負けたのでは無く、清正に負けたのだ」と独白したと伝えられています。明治時代においても、熊本城は強かったのです。

威風堂々としているこのお城を見ると、なんだか自分も強くなれるような気がして来ます。そんな熊本城は、私にとっても熊本県民にとっても、自信をもつて紹介できる自慢の場所なのです。
〈本多 清寛ほんだ しょうかん〉

〒105-8544 東京都 港区 芝 2-5-2 曹洞宗宗務庁内
曹洞宗総合研究センター 教化研修部門 一般教化課程
ともしび法話会

TEL 03-3454-6844 FAX 03-3454-7180

2012(平成24)年 6月1日発行 第365号